

としょかんゆうびん 中学年向け 令和3年冬

相生市立図書館 0791-23-5151

1・2・3月の行事とカレンダー

1月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	*	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	*	*	*	*	*

シネマサロン

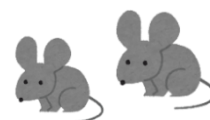
1/22 (土)
14:00~ (89分)
「名犬ラッシー」

おはなし会

1/23 (日) 11:00~
絵本『かいじゅうたちのいるところ』
おはなし「ねずみの国」ほか

人形劇

1/30 (日) 11:00~
「じごくのそうべえ」



2月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	*	*	*	*	*

トーンチャイム

2/12 (土) 11:00~
「バレンタイン♡コンサート」



おはなし会

2/27 (日) 11:00~
絵本『いっすんぼうし』
おはなし「アナンシと五」ほか

シネマサロン

2/26 (土)
14:00~ (90分)
「赤毛のアン」

3月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	*	*

音楽会

3/13 (日) 11:00~
「虹にじがいっぱいコンサート♪」

えいが会

3/19 (土) 10:30~
「鉄腕アトム」

おはなし会

3/20 (日) 11:00~
絵本『はなのすきなうし』
おはなし「はなたれ小僧さま」ほか

「三びきのやぎのがらがらどん」
「ブレーメンの音楽隊」



■...お休み

※申込み不要 ※体調の悪い人は行事に参加できません。

開館時間...午前9時~午後7時

※行事に参加するときは、検温・手指の消毒・マスクの着用をお願いします。

おすすめのほん

『はだかの王さま』

アンデルセン・作 バージニア・リー・バートン・絵 乾侑美子・訳//岩波書店//P-A
むかし、きれいな服を着ることが何よりも好きな王さまがいました。ある日、きゅうでんに
機おりを名乗る二人の男がやってきます。かれらは、かしこくて、役目にふさわしい者だ
けに見える、まほうの布をおることができると言います。それを聞いた王さまは…。

『スキーをはいたねこのヘンリー』

メリー・カルホーン・文 エリック・イングラハム・絵 猪熊葉子・訳//リブリオ出版//P-C
ねこのヘンリーは、家族の人たちと山小屋へスキーをしに出かけました。男の子は、後ろ
足で歩くことが好きなヘンリーにも、スキーをさせてみよう、小さなスキーとストックを
作ってくれます。そのときはいやがっていたヘンリーでしたが…。

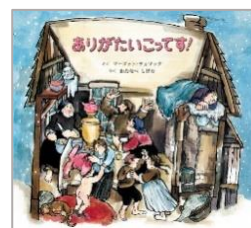
『北の魔女ロウヒ』 トニ・デ・ゲレッツ・原文

バーバラ・クーニー・絵 さくまゆみこ・編訳//あすなろ書房//P-K
北の国に、ロウヒという名前の魔女が住んでいました。見た目はふうのお
ばあさんのようですが、その気になれば、鳥にも魚にも石にだってなること
ができました。ある日、ロウヒがスキーをはいて出かけると、どこからか音
楽が聞こえてきます。



『ありがたいこってす!』

マーゴット・ツェマック・作 わたなべしげお・訳//童話館出版//P-T
一人のまずしい男が、自分の母親とおかみさんと6人の子どもたちと
小さな家に住んでいました。家には部屋が一つしかなく、家族は毎日
けんかばかりしていました。男はとうとうがまんができなくなり、何
かい考えはないかと、ラビのところへ相談に行きます。すると、話
を聞いたラビは、男に動物を飼っているかとたずね…。



『あたまにつまった石ころが』 キャロル・オーティス・ハースト・文

ジェイムズ・スティーンソン・絵 千葉茂樹・訳//光村教育図書//P-H
みなさんには、今、何か夢中になっているものがありますか。
これは、小さなころから石を集めるのが好きだった、一人の男のおはなしです。まわ
りの人たちから「あたまのなかにも石ころがつまっている」と言われたその人は、どんな人
生を送ったのでしょうか。

『バラライカねずみのトラブロフ』

ジョン・バーニンガム・作 せたていじ・訳//童話館出版//P-バ

あるやどやさかばの酒場に、ねずみの一家が住んでいました。酒場には毎晩、楽士たちがやってきて音楽をかなでました。トラブロフは音楽をきいたり、えんそうを見たりするのが好きで、家に帰るのもわすれてしまうほどでした。そんなトラブロフを見て、大工のナバコフじいさんは、バラライカという楽器を作ってくれます。

『トンボソのおひめさま』 M. バーボー M. ホーンヤンスキー・文

アーサー・プライス・絵 石井桃子・訳//岩波書店//93

あるくにひとりおうさまがなくなりました。三人の王子に残されたのは、たった一つの古いちだけで、それをふって中から出てきたものがそれぞれの財産になりました。三番目の王子は、身につけて行きたいところを思いうかべれば瞬間移動ができるベルトを手に入れます。王子はさっそく、美しいとうわさのトンボソのおひめさまに会いに行きます。ほかに、4つのお話が入っています。

『黒ネコジェニーのおはなし1』

エスター・アベリル・作絵 松岡享子 張替恵子・共訳//福音館書店//93-ア

ジェニー・リンスキーは、黒い毛に黄色い目をした、はにかみやのネコです。みなしごでしたが、船長のキャプテン・ティンカーに出会い、今ではいっしょにくらしています。家の庭では、毎晩ネコの集まりが開かれていました。ジェニーもそれに参加したいと思っていました…。この本には3つのお話が入っています。続きの本が2さつあります。



『木馬のぼうけん旅行』

アーシュラ・ウィリアムズ・作 ペギー・フォートナム・画 石井桃子・訳//福音館書店//93-ウ

ピーダーおじさんは、木のおもちゃを作り、それを売ってくらしていました。ある日、おじさんは小さな木馬を作ります。それは今までで一番の出来でしたが、高いねだんをつけたために買う人がいませんでした。やがておもちゃが売れなくなり、生活にこまったおじさんは病気になってしまいます。木馬はおじさんを助けるため、お金をかせぎに出ていきます。

『火曜日のごちそうはヒキガエル』 ラッセル・E. エリクソン・作

ローレンス・ディ・フィオリ・絵 佐藤涼子・訳//評論社//93-E

そうじが好きなウォートンと料理が好きなモートンは、ヒキガエルのきょうだいです。土の中の心地のよい家で、仲良くくらしていました。冬のある日、ウォートンは、モートンが作ったおかしを食べ、トゥーリアおばさんにも食べさせてあげたいと思います。モートンが心配するなか、ウォートンはスキーをはいて出かけて行きますが…。

『パディーの黄金のつぼ』

ディック・キング＝スミス・作 三村美智子・訳//岩波書店//93ーキ

ブリジットは、8才のたんじょうびの朝、ニンジン畑で変わったものを見つけます。それは、ふさふさの赤い毛のほかは、顔も体も着ている服もすべて緑色の、レプラコーンという小人でした。かれによると、かれらのすがたを見るためには必要なことが4つあり、ブリジットはその日、たまたまそのすべてを満たしていたそうです。その後、ふたりはいっしょに楽しくすごしていましたが、やがて冬が来て…。



『とびきりすてきなクリスマス』

リー・キングマン・作 山内玲子・訳//岩波書店//93ーキ

セッパラ家は、お父さんとお母さんに10人の子どもがいる大家族。エルッキはきょうだいのちょうど真ん中で、10才の男の子です。クリスマスまで2週間あまりとなったある日、長男マッティの働く船が行方不明になった、という知らせが家族のもとにとどきます。きょうだいたちが落ちこむなか、エルッキは物置であるものを見つけて…。



『楽しいスケート遠足』

ヒルダ・ファン・ストックム・作絵 ふなとよし子・訳//福音館書店//93ース

9才のふたごのきょうだい、兄のエベルトと妹のアフケは、オランダの小さな村に住んでいます。ある年の冬、ようやく本格的な寒さがやってきたころ、二人の担任の先生が、遠くの町まで一日がかりのスケート遠足に出かけることを思いつきます。小さなころからスケートに親しんでいる子どもたちは大喜びです。そして、待ちに待った遠足の日がやってきます。



『ぼくの犬スーズン』

ニコラ・デイビス・文 垂石眞子・絵 千葉茂樹・訳//あすなろ書房//93ーデ

ジェイクは、いつもとちがうことをするのが苦手です。そのため、クリスマスが近づき、町の様子が変わっていくことに不安を感じていました。そんなある日、落ち着けるはずの部屋の中にまで、クリスマスの気配がして、ジェイクはパニックになりかけますが…。



『大力のワーニャ』 オトフリート・プロイスラー・作 大塚勇三・訳//岩波書店//94ープ

ワーニャはおひやくしょうのむすこの三男で、食べることとねることのほかは、ひなたぼっこしかしないような、大変ななまけ者でした。ある日、おばさんから仕事をたのまれ、仕方なく森に向かったワーニャは、そこで目の見えない老人に出会います。ワーニャは老人に言われたとおりに、その日からかまどの上ですごし、そして7年後…。